

Title	ラテン語語彙研究：辞書編纂を通じて
Sub Title	A study of Latin vocabulary through lexicography
Author	小池, 和子(Koike, Wako)
Publisher	慶應義塾大学
Publication year	2023
Jtitle	学事振興資金研究成果実績報告書 (2022.)
JaLC DOI	
Abstract	<p>本研究は、広範に収集された用例を検討することによって、ラテン語語彙研究に貢献することを目的としたものである。具体的には、Bayerische Akademie der Wissenschaftの一部分であるThesaurus Linguae Latinaeにおいて、同名のラテン語辞典Thesaurus Linguae Latinae (以下TLL)の編纂に参加し(2022年7月～9月、2023年3月)、「再び見る」を主たる意味とする動詞revideo、「再び訪れる、再び見る」などの意味を持つ動詞reviso、「割れ目、隙間」などの意の名詞rimaの調査および項目執筆を行い、また「振り回す、回転させる、転がす」などの意味を持つ動詞rotoの調査に着手した。TLLは、後2世紀半ばまでのあらゆるラテン語テキストからは全単語の用例を網羅的に収集し、さらに後600年頃までのテキストについてもかなりの程度まで捕捉するなど、他の如何なるラテン語辞典よりも幅の広い時代と作家の用例を基礎資料としている。それはこの辞書の最大の強みのひとつであり、たとえば今回の研究においても、意味のみならず形態上からも混同が起こりやすいrevideoとrevisoの用例の判別と整理に効果を発揮した。これはもちろん、項目執筆にも反映されている。</p> <p>なお研究担当者(小池)がTLLの編纂に参加するのはこれが最初ではなく、2015年から継続して行っており、一部(2015年10月～2017年9月、2018年度)は慶應義塾大学からの研究助成(前者は福澤基金・国外留学、後者は学事振興資金)を受けている。本研究はそれらの従来の研究に連なるものである。上に示した4つの単語のうち、revideoとrevisoは2021年から既に作業を続けていたものであり、今回の研究で、編集責任者の査読も済み、項目執筆が一通り完成するに至った。来年以後に刊行されるTLLの分冊に掲載される予定である(ただし辞書である以上、所定の分冊におさめられる単語の項目が全て揃うまでは刊行が不可能なため、本報告書執筆時点では正確な出版時期を記すことができないことをお断りしておきたい)。またrimaについては、いったん項目を書き上げたあと、編集責任者からのアドバイスを受けて、第2のバージョンを仕上げた段階である(2023年3月末時点)。今後、さらなる修正が続く可能性がある。まだ調査の最初の段階であるrotoとあわせ、引き続き調査・研究を進めていきたい。</p> <p>The present study aimed to contribute to Latin lexicographical research. Specifically, at the Thesaurus Linguae Latinae, a division of the Bayerische Akademie der Wissenschaft, I participated in the compilation of the Latin dictionary of the same name, Thesaurus Linguae Latinae (hereafter TLL), researching and writing entries for revideo, reviso, rima, and roto (more precisely, the research had just begun on the last word). TLL has a wider base of examples from a wider range of periods and authors than any other Latin dictionary, with a comprehensive collection of examples of all words from all Latin texts up to the mid-2nd century AD, and to a considerable extent from texts dating back to around 600 AD. This is one of the greatest advantages of TLL, and in this research too, for example, it was effective in identifying and organising examples of revideo and reviso, which are easily confused not only in terms of meaning but also in terms of form. This is not the first time that I have participated in the compilation of TLL; I have continued to do so since 2015, and part of the work has been funded by a research grant from Keio University. The present research is linked to those previous studies.</p>
Notes	
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=2022000010-20220073

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

研究代表者	所属	言語文化研究所	職名	教授	補助額	300 (A) 千円
	氏名	小池 和子	氏名 (英語)	Wako Koike		
研究課題 (日本語)						
ラテン語語彙研究——辞書編纂を通じて						
研究課題 (英訳)						
A Study of Latin Vocabulary through lexicography						
1. 研究成果実績の概要						
<p>本研究は、広範に収集された用例を検討することによって、ラテン語語彙研究に貢献することを目的としたものである。具体的には、Bayerische Akademie der Wissenschaft の一部門である Thesaurus Linguae Latinae において、同名のラテン語辞典 Thesaurus Linguae Latinae (以下 TLL) の編纂に参加し(2022年7月～9月、2023年3月)、「再び見る」を主たる意味とする動詞 <i>revideo</i>、「再び訪れる、再び見る」などの意味を持つ動詞 <i>reviso</i>、「割れ目、隙間」などの意の名詞 <i>rima</i> の調査および項目執筆を行い、また「振り回す、回転させる、転がす」などの意味を持つ動詞 <i>roto</i> の調査に着手した。TLL は、後2世紀半ばまでのあらゆるラテン語テキストからは全単語の用例を網羅的に収集し、さらに後600年頃までのテキストについてもかなりの程度まで捕捉するなど、他の如何なるラテン語辞典よりも幅の広い時代と作家の用例を基礎資料としている。それはこの辞書の最大の強みのひとつであり、たとえば今回の研究においても、意味のみならず形態上からも混同が起こりやすい <i>revideo</i> と <i>reviso</i> の用例の判別と整理に効果を発揮した。これはもちろん、項目執筆にも反映されている。</p> <p>なお研究担当者(小池)が TLL の編纂に参加するのはこれが最初ではなく、2015年から継続して行っており、一部(2015年10月～2017年9月、2018年度)は慶應義塾大学からの研究助成(前者は福澤基金・国外留学、後者は学事振興資金)を受けている。本研究はそれらの従来の研究に連なるものである。上に示した4つの単語のうち、<i>revideo</i> と <i>reviso</i> は2021年から既に作業を続けていたものであり、今回の研究で、編集責任者の査読も済み、項目執筆が一通り完成するに至った。来年以後に刊行される TLL の分冊に掲載される予定である(ただし辞書である以上、所定の分冊におさめられる単語の項目が全て揃うまでは刊行が不可能なため、本報告書執筆時点では正確な出版時期を記すことができないことをお断りしておきたい)。また <i>rima</i> については、いったん項目を書き上げたあと、編集責任者からのアドバイスを受けて、第2のバージョンを仕上げた段階である(2023年3月末時点)。今後、さらなる修正が続く可能性がある。まだ調査の最初の段階である <i>roto</i> とあわせ、引き続き調査・研究を進めていきたい。</p>						
2. 研究成果実績の概要 (英訳)						
<p>The present study aimed to contribute to Latin lexicographical research. Specifically, at the Thesaurus Linguae Latinae, a division of the Bayerische Akademie der Wissenschaft, I participated in the compilation of the Latin dictionary of the same name, Thesaurus Linguae Latinae (hereafter TLL), researching and writing entries for <i>revideo</i>, <i>reviso</i>, <i>rima</i>, and <i>roto</i> (more precisely, the research had just begun on the last word). TLL has a wider base of examples from a wider range of periods and authors than any other Latin dictionary, with a comprehensive collection of examples of all words from all Latin texts up to the mid-2nd century AD, and to a considerable extent from texts dating back to around 600 AD. This is one of the greatest advantages of TLL, and in this research too, for example, it was effective in identifying and organising examples of <i>revideo</i> and <i>reviso</i>, which are easily confused not only in terms of meaning but also in terms of form.</p> <p>This is not the first time that I have participated in the compilation of TLL; I have continued to do so since 2015, and part of the work has been funded by a research grant from Keio University. The present research is linked to those previous studies.</p>						
3. 本研究課題に関する発表						
発表者氏名 (著者・講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)			